

2013年4月28日

## 天草のアイラトビカズラ

カズラといえば、カンナカズラ、いわゆる葛がすぐに思い浮かぶ。

それほど葛の繁殖力はすさまじく、かつて先祖たちが苦勞して山野を開拓し、田畑にしたところが、今や先祖返りして、いやそれよりも荒地化して、まさに葛様の天下。昔は、葛の根は、澱粉や薬品として重宝され、また茎葉は牛の食料として使われていたため、それほど繁茂することはなかった。だが、今日、葛の利用などは、だれも見向きもしない。

せめて、とみに増えたイノシシが、葛の根を掘って食べてくれればいいと思うが、イノシシの食材に上がっていないらしい。さて、こうして大繁茂するカズラがあるかと思えば、なんと日本でたった3本しかないというカズラがある。

それは、アイラトビカズラというもの。このアイラトビカズラ、最初に発見されたのは、熊本県山鹿市菊鹿町相良。

当時は、日本で自生しているのはここだけされ、国指定の天然記念物に指定された。その後、長崎県の佐世保の無人島にもあることが分かり、国内2例目となった。

ところが、3例目が2010年、なんと我が天草で発見された。

場所は、天草市倉岳町棚底地区。

倉岳登山道の入り口から数百メートルの所にある。

専門外のボクがこのアイラトビカズラについて語ってもしようがないので、現地に掲げてあるパンフを、設置者には断りしていないが、長文になるが、そのまま紹介しよう。

パンフには、英文もあるが、ボクもあなたも英文は理解しえないという前提のもとに、省略する。



アイラトビカズラ（マメ科）の日本における新分布（井手真帆、今江正知、池田博）

※井手、熊本市立博物館、今江、熊本県熊本市・・・、池田、東京大学総合研究博物館

筆者の一人井手は、2010年4月に天草市役所倉岳支所の歳川喜三生氏から、見慣れないマメ科植物の花が咲いているという連絡を受け、今江とともに現地に赴いた。現地は天草上島の倉岳の裾野にあたり、問題の植物は棚底川沿いの細い道の脇に一本だけ生育していた。根元の幹回りは48cmで、地面から高さ30cm付近で二股に分かれ、周辺に生育しているニッケイなどの樹木に絡みながら蔓を伸ばし、幹に直接つけた花や、地面に多数落ちた花が独特の芳香を放っていた。花と葉を採集して確認したところ、旗弁が暗紫色で無毛であることなどから、アイラトビカズラと同定された。

アイラトビカズラは、マメ科トビカズラ属のつる性常緑本で、日本と中国（南部・南西部）に自生する。

中略

日本では、従来、熊本県山鹿市菊鹿町相良に1本だけ自生するとされ、国指定の天然記念物に指定されていた。

ところが、2002年に長崎県佐世保市九十九島の無人島で発見され、日本で2番目の産地が報告された。したがって今回報告する産地は、日本における3番目の産地と考えられる。

発見されたアイラトビカズラは、生育地の付近にゲートボール場があり、人の出入りがある場所に生育していたにもかかわらず、これまで気がつかれていなかった。その理由として、これまでは花をつけていなかったためではないかと思われる。菊鹿町のアイラトビカズラも、なかなか花をつけないことが知られていた。

今回発見されたアイラトビカズラが自生のものか、誰かが持ってきて植えたものなのか分からない。もし自生のものだとすると、どこから種子が運ばれてきたかのなど、生物地理学的に興味深いと考える。

中略

アイラトビカズラの情報を提供いただいた天草市役所の歳川喜三生氏に感謝いたします。

なお、このアイラトビカズラは、昨年5月10日にも、同ブログで紹介している。

